

令和7年度 第2回 岸和田市スマートシティ推進協議会

## 防災ワーキンググループ<sup>o</sup> 活動状況報告

---

2026.01.26

株式会社インテック

## 活動スケジュール

---

# 活動スケジュール

現在

📍 第 1 回

📍 第 2 回

📍 第 3 回

📍 第 4 回

📍 第 5 回

📍 第 6 回

📍 第 7 回



📍 第 8 回

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2-3月

情報収集〜クロノロジーのデジタル化

新テーマ検討

昨年度振り返り  
取組事例紹介

実装テーマ  
選定

実証テーマ  
詳細検討

実証計画  
検討

スケジュール  
実証評価項目  
検討

大阪府より  
類似システム  
運用検討中と案内

大阪府の動きに  
合わせる

防災WGの  
スコープ再検討

課題  
8テーマ創出

課題2テーマ  
真因分析

課題6テーマ  
真因分析

テーマの選定  
次年度計画検討

実証テーマ  
6案創出

実証テーマ  
2案選定

テーマ合意

実証計画  
策定

スケジュール  
実証評価項目  
策定

課題2テーマ  
実証テーマ創出

課題6テーマ  
実証テーマ創出

次年度計画  
策定

## フェーズ1(情報収集～クロノロジーのデジタル化)の取り組み内容

---

## 【実証テーマ】

## 災害情報の収集～庁内でのクロノロジーダッシュボードによる情報共有のデジタル化・効率化の検証

## 現状の課題・背景

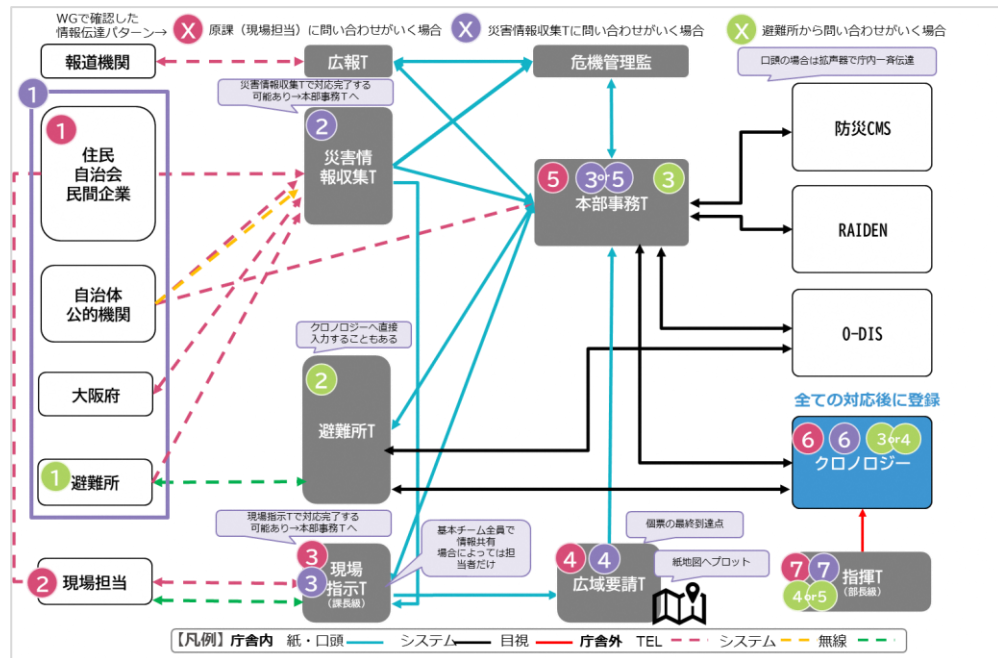
## 《情報伝達・共有の遅延/経路の複雑化》

- ・情報を受け付けたら紙と口頭で共有
- ・情報受付パターンは複数あり庁内経路が複雑
- ・指揮層が判断する事案、各担当が判断する事案と判断基準がまちまち
- ・指揮層が判断する場合、情報の認識が最後になってしまい情報受付から判断までに時間を要している

## 《クロノロジーダッシュボードの管理負担・機能不足》

- ・Excelのマクロで作成しており、管理・メンテナンスが一部の職員に属人化している
- 発災時に使おうとするとファイルが壊れている可能性もある
- ・リアルタイム性がなく入力重複や整合性をとることが困難

## 現状の情報伝達ルート



## 【実証テーマ】

## 災害情報の収集～庁内でのクロノロジーダッシュボードによる情報共有のデジタル化・効率化の検証

## デジタル化の設計

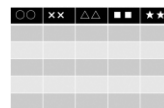


住民や関係各所から  
情報連携



情報のデジタル化

- 情報をシステムで管理
- 紙への記入を省略
- 情報伝達の経路を簡潔にする
- 履歴管理、ステータス管理も可能に



情報整理の効率化

- クロノロジーダッシュボードで庁内全体で情報共有
- リアルタイム性で指揮判断のスピード向上

## 【実証テーマ】

災害情報の収集～庁内でのクロノロジーダッシュボードによる情報共有のデジタル化・効率化の検証

## 検討により整理できたこと3つ

## ①実証計画

(目的)  
迅速かつ適切な災害対応を実現し市民の安全確保へ

(仮説)

- ✓ スピード向上(対応完了まで、指揮層の情報認識)
- ✓ 情報連携の最適化
- ✓ 指揮判断の改善
- ✓ デジタル化の有用性

## ②実証シナリオ

(訓練シナリオ)  
現状の課題が発生するシナリオとする

(必要資材)

災害時使用スマホ・PCなど

(実施体制)

- ✓ 実運用と同様の担当・配置で実施
- ✓ 岸和田市職員が実施

## ③検証観点

(システム面)  
操作性、機能性

(業務面)

指揮判断改善、汎用性

(体制面(人材面))

無理のない体制か

(財政面)

来年度予算・外部財源の活用、費用対効果

➡大阪府の動向に合わせて実証可能な時期が来た際にこれまで整理してきたことを活用

## フェーズ2(新テーマ検討)の取り組み内容

---



## 【本年度のゴール】

## 優先テーマの選定と次年度計画の策定

## ゴール設定の過程

危機管理課様にて課題を再抽出した結果、多方面での課題があることが明らかになった。しかし、各課題については深堀し本当の課題を検討する余地があるため、分析した後に優先して取り組むべきテーマを抽出することとした。さらに、次年度以降、本格的に実証、実装に取り掛かるための計画も策定することとした。

## 本年度の成果

## ①優先テーマの選定

たくさんある課題の中から優先テーマを選定

(選定方法)

課題ごとに現状(AsIs)と目指す姿(Tobe)のギャップを明確にし解決方法を導き出す

## ②次年度計画の策定

①で選定する優先テーマについて次年度計画を策定する

(次年度計画に含める観点)

・実証概要 ・スケジュール ・検討課題など

## 課題の分析

### 課題分析の方法

課題を8つのテーマに分類し現状を深堀する。そのうえで目指す姿とのギャップを明確にし解決方法を導き出す。

### 現状分析の結果

#### (市民:平時) 災害への意識

- ✓ 若者の組織加入率が低い
- ✓ 広報活動の注目度が低い
- ✓ 防災意識の持続力がない

#### (市民:発災時) 情報取得の行動

- ✓ 発信する情報が限定的
- ✓ 電話での問い合わせが減らない

#### (庁内:平時) 備蓄品管理

これから分析

#### (庁内:発災時) 支援物資分配・運搬

これから分析

#### (庁内:発災時) 人員リソース

これから分析

#### (庁内:発災時) 庁内運用

これから分析

#### (庁内:発災時) 市民対応

これから分析

#### (庁内:発災時) 災対本部・設備

これから分析

# ITで、社会の願い叶えよう。



# TIS INTEC

Group

＜本資料の取り扱いに関して＞

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、株式会社インテックから許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。